

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターありたま担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和7年7月23日（水） 13時30分～15時30分
2 開催場所	積志協働センター 302講座室
3 参加者	27名（委員8名、関係機関5名、事務局3名、オブザーバー11名）
4 協議の内容	
開会	-
協議体会長より行った。	
前回までの振り返り	-
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき振り返りを行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
自己紹介	①所属、②名前、③積志地区でよく行く場所orおすすめの場所or思い出の場所など
新規委員やオブザーバーがいることを踏まえ、グループに分かれて自己紹介を行った。	
情報提供①	データや地図から見る積志地区の現状について〈中郡町・大瀬町・大島町〉
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき情報提供を行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
協議テーマ①	情報提供を踏まえた地域の現状について
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を踏まえ感じたこと、気づいたことについて ・（3町・地区全体問わず）地域の生活課題や今後考えられる取り組みについて 	
情報提供①を踏まえ、グループに分かれて協議を行った。	
主な意見・質問など	
Aグループ	
-	<ul style="list-style-type: none"> ■各町について <ul style="list-style-type: none"> ・中郡町に若い世代が多い理由は、大瀬町や大島町と比べて自治会数が多く、また大規模既存集落内の土地が売れているためだと思われる。 ・中郡町は、親族が近隣に家を建てて住むことが多いように感じる。 ・大瀬町の人口が多い理由は、鷲の宮団地が含まれるためだと思われる。 ■生活支援に関する取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市はゴミの種類によって捨てられる曜日が決められているが、身体の調子が良い時にゴミを捨てたいという高齢者がいる。5年後から10年後には高齢者が間違いなく増加するため、高齢者向けの特別ルールなどを作る必要が出てくるのではないかとと思われる。 ・自治会長と民生委員が連携して、地域を回ることがある。その際、居住していた高齢者が施設に入所した関係で、空き家のような状態になっている家がありどうすればよいか悩んでいる。 ・今後、自治会と民生委員、地区社協の連携がより求められるようになるのではないかとと思われる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長になって積志地区社協が運営する家事支援など福祉的な取り組みの存在を知った。この活動をどのように自治会内で広めるかについて悩んでいる。 ・可能であれば、家事支援活動で知り得た利用者の情報を自治会長に共有していただきたいと感じる。そうすることで、自治会長や民生委員等で利用者の家に訪問し、より見守り体制を強化できるのではないかと思われる。しかし、昨今は個人情報保護の面が一層厳しくなっているため、その点が課題であると思われる。 ・民生委員によって担当の世帯数が異なるため、多いところは全体を把握するのが難しいと感じる。そのため、地域によって見守り機能の差が生じてしまうのではないかと思われる。 <p>■協議体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや親との交流は、地域福祉活動の担い手不足の問題にもつなげていけると思われるため、有効だと感じる。 ・高齢者の増加に伴い、子どもの数が減っている。協議体は、高齢者の話が主になると思われるが、子どもの話も混ぜながら三世代交流などを話し合っていけるとよいのではないかと思われる。
<p>Bグループ</p> <p>-</p>	<p>■各町について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会も、世帯数など規模によって実態が違うと思われる。 ・上大島と上大瀬は同じ大島町でも学区が異なるため、交流がなく同じ町である感覚が少ないように感じる。 ・同じ町でも自治会によって地域性があり、まとまりがあって活動もさかんで繋がりも濃い地域がある一方で、挨拶ただけで不審者扱いされるような繋がりが希薄な地域もあるように感じる。 ・自治会長も、定年退職して比較的時間の調整がしやすい人や、地域へ貢献したいと思ってくれる人などが一定数いる地域は自治会長などの担い手が見つかりやすいと思われる。地域によっては仕事をしながら自治会長を担わなくてはならず、くじ引きなどで押し付け合うような形で運営を行っている地域もあると聞いている。 ・中郡町の人口などを見ると、若い層が増えていると思われるが、万斛東や万斛西など学校周辺の限られたエリアに限られると思われる。関連して、空き家が増えている地域もあるように感じる。 ・大瀬中では、本家で高齢者とその子どもで同居している世帯が見られる。本家のためか未婚の子が多く、今後独身世帯が増えるように感じ、見守りやケアが課題になるのではないかと思われる。 ・大瀬中では、PTA が解散したため廃品回収など PTA が担ってきた業務もすべて自治会に回ってくるようになり、担い手がない中で負担感も増えている状況である。 ・避難場所として、インフラの観点から盤石とはいえない場所が指定されていると思われる。このあたり市に問い合わせしても予算不足を理由に対応してもらえず、心配なら他の避難所を利用するよう言われた。このあたり憤りを感じている。 ・中郡町の杏林堂薬局の南側は区画整理もされ分譲住宅などの開発が進み、一気に 70-80 世帯ほどの世帯が増えたと聞いている。そのあたり人口や世帯数の増加には土地開発も大きく影響しているのではないかと思われる。

	<p>■地域の社会資源について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大瀬町では買い物できる場所が限られていると思われるが、中心部にカネスエが開店予定のため、状況は大きく変わるとと思われる。ただ従業員が集まらないなどの理由で開店が遅れていると聞いている。 ・中郡町の中には、自治会の班など近隣同士で、草取りなどを助け合っている地域もあると聞いている。 <p>■家事支援サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシは見たことがあるが、高齢者世帯に年齢の定義はあるか、利用までの流れ、どこまでやってくれるのかなど、一見して自身が利用できるかも含め利用のイメージが浮かびにくいように感じる。 ・50・60代でもスマホで情報収集できる方もいるが、紙媒体だと情報量も限られるように感じる。 <p>■生活支援に関する取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島町上大瀬では、当初「災害時避難行動要支援者名簿」の登録者は19人ほどであったが、周知方法を変えたところ100人以上の登録があった。知らないだけで困っている人は地域にいるのではないかと感じた。 34班のうち32班に「災害時避難行動要支援者名簿」の登録者がいたため、防災訓練の際に、該当者への声かけができるようにした。何かあった時に近所の人が声かけできるような体制が大切ではないかと考えている。 ・災害時に黄色いタオルを用いた安否確認の手法があるが、そのように近隣同士で手助けしやすい工夫が大切ではないかと思われる。 ・自治会もすべてを担えるわけではないので、例えば自治会で実施する防災訓練などを機に自身でも災害対策を進めてもらうなど、互助の活動を通して自助の力を高めていくことも大切ではないかと思われる。 ・声かけや見守りにあたっては、学生は不信感を抱かれにくいと思われるため、色々な人たちで協力していくことが大切ではないかと思われる。
Cグループ -	<p>■シニアクラブについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万斛東シニアクラブは組織としては解散したと思われる。要因として代表になる人がおらず、会員として加入する方も減少していることが考えられる。 ・単位自治会は2つあるがシニアクラブは1つである。偶数月は上大瀬、奇数月は上前島の公会堂で活動している。上大瀬の方が人口も多く、それに伴い会員も多い。シニアクラブ会長も上大瀬で選出している。2つの単位自治会が合同で開催するようになった経緯は不明だが、会員数減少等が要因として考えられる。会員は全部で30人弱である。新年会の際は自治会長も呼ばれ、顔を合わせる場となっている。 ・(毎月5日に開催されるため)「いつか会」という名称で組織化されている。大島町と同様に大瀬町中と榎木が合同で開催。15名程度が参加していると思われる。こちらも同様に、新年会の際は自治会長も呼ばれ、顔を合わせる場となっている。加入者は減少傾向にある。 ・「寿会」という名称で組織化されている。公会堂で週2回開催しており、火曜日はカラオケ、金曜日は輪投げを実施している。 ・公会堂はシニアクラブが使用する頻度が高い。今の時期は秋祭りに向けての準備やラッパの練習で子どもを含んで人の出入りが多い。過去と比較すると減衰傾向にあるが、秋祭りに関することでは人が集まりやすいように感じる。

■PTA・子ども会について

- ・大瀬小 PTA は解散している。加えて上前島の子ども会加入者も 35 名から 15 名に減少している。小学校の児童数も 2 クラスから 1 クラスになるなど減少傾向にある。
- ・1 年生を迎える会や 6 年生を送る会、節分、クリスマス会など子ども会のイベントを自治会と一緒に開催することが多い。
- ・PTA の解散や子ども会の減衰により、今後は行事の参加者を確保することが難しくなるのではないかとと思われる。
- ・子ども会加入者減少の背景として、加入のきっかけが不明確になったことや、加入に伴う役員への勧誘の懸念が考えられる。
- ・有玉周辺でも 12 町合同で秋祭り(有玉神社)が開催され、今の時期はラッパの練習等を各自行っている。
- ・中郡町で高齢化率が横ばいとなっている要因の一つとして、ブリックタウン(杏林堂薬局中郡店付近の分譲住宅地)ができたことが考えられる。90 世帯程度あるが、小学生のいる世帯も多く、十数年後に子ども達が自立した際には再び住民の年齢層が上がることが懸念される。

■住民同士の交流について

- ・10 年、20 年前は住民にまとまりがあった。昔は祭りで使用する道具等をみんなで集まって作っていたが、最近では時間効率を重視し、出来合いのものを購入するようになった。その分、金銭的負担も増え、関係性構築のきっかけも少なくなったように感じる。
- ・確かに集まる機会が減少しているように感じる。祭りの準備を通じて顔なじみになっていたが、今はそれが無い。関連して災害時にも互いに助け合うことが難しくなるのではないかと感じる。
- ・近年の社会情勢の影響もあり、新しく転入された住民に対して、地域の関係団体への声掛けが行われにくくなっている。ただ、声掛けがなければ地域との接点が持たず、コミュニティ参加の機会も失われがちである。多くの住民は活動に対し消極的な傾向にあるが、関心のある方や前向きな方に対しては、初期段階での声掛けが重要ではないかと思われる。

■居場所活動に関する取り組みについて

- ・「喜楽会」という名称のサロンがあり、20 名程度が参加しているが、男性参加者は 1 人しかいない。
- ・積志町も状況は概ね同様である。リーダーを担ってくれる人がいないためサロン活動継続に懸念がある状況である。シニアクラブもサロンも周知方法や活動内容を工夫する必要があるのではないかとと思われる。活動内容の具体例として、映写会(昔の映画を見る会)を開催しているサロンがあると聞いたことがあり、映画を見た後に感想を言い合うといった内容だが、盛況であるとのこと。DVD プレイヤーやスクリーン等の設備が整っている公会堂も少なくないことから、そうした環境を活用すれば、一定の開催可能性はあるのではないかと感じる。その他にも、e-スポーツ行事の開催も、真新しく、子ども達へ参加を呼び掛けやすいのではないかとと思われる。
- ・町内のサロンでは、月 2 回の頻度でスマホ教室を開催しており、講師は携帯ショップの方が担当している。参加費は無料で、参加者の習熟度に応じた内容で実施されている。同じ内容(例:LINE の使い方など)が繰り返されることも多いが、忘れてしまったことを再確認できる点も好評のようである。高齢者を中心に、男性の参加も見られる。

	<ul style="list-style-type: none"> レコードを聴く会を開催している協働センターもある。参加者が満員になるほど盛況な様子。積志協働センターやふれあい交流センター竜西等の公共施設を活用するのも良いのではないかと思われる。 最近では、LINE グループを活用して連絡を取り合うことが多い。以前よりスムーズに情報共有を行えるようになったように感じる。
情報提供②	道路運送法制度の改正(令和6年3月)等について
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき情報提供を行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
その他・事務連絡	①生活支援体制づくり協議体委員報酬の支払いについて ②次回の協議体について
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき事務連絡を行った。	
主な意見・質問など	
②次回の協議体について	
周知	意見を踏まえて、以下の通り実施する。案内通知は1か月ほど前に送付する。 <ul style="list-style-type: none"> 日時：令和7年10月07日(火)13時30分から15時30分 場所：積志協働センター 302講座室
閉会	-
協議体副会長より行った。	
5 今後の見通し・必要な対応	<p>当圏域の協議体においては、SCとして地域での取り組みを協議するにあたり地域の現状について理解を深めることを重視している。</p> <p>昨年度はGoogleマイマップ・jSTATMAPなどの地図や、家事支援サービスの利用者状況を活用して、傾向や考えられる生活の困りごとなどについて確認した。ただ、当圏域は広域であり、エリアによって現状が大きく異なることが考えられ、より細かな単位での協議を図ることとした。</p> <p>具体的に今年度は、当圏域を3ブロックに分け、該当するブロックの町の自治会長をゲストに日々の活動を通しての意見や住民として感じる意見を参考にして、当圏域の現状についてより細かなエリアで協議を深めることとした。</p> <p>実際、自治会長にご参加いただいたことで、より細やかな地域の声が把握でき、また協議体らしい地域の関係団体で連携して地域の生活課題を協議していく雰囲気をより高めることができたように感じる。</p> <p>引き続き、今年度は各回において特定のブロックの現状について協議を深めていく。そのうえで昨年度と比較して協議の過程や結果がどのように変わったのか注目しながら次年度以降の進め方を検討していきたい。</p>